



題字 井口 文章
再刊 第460号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2024

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：いよいよ明日から錦城祭！
クラスや部活動の企画をご紹介
二面：錦城56回生の阪本裕仁さんに取材
夏合宿レポート第2弾！

青春を完全燃焼せよ！ ついに明日 錦城祭開幕

明日14日から、いよいよ待ちに待った錦城祭が始まる。各クラスや部活、同好会など多くの企画団体が、よりよい企画にするべく夏休み中から試行錯誤を重ねてきた。今号ではそれぞれの準備の様子と、錦城祭全体の運営に携わる実行委員の声をお届けする。

アメリカンな店でアイス販売

1年F組の企画は『Americas』。アメリカンな店をコンセプトにした企画で、アイス販売を行うほか、フォトスポットも設けられている。クラス企画係の西田佳菜さん(1E)によると、スプレードリンクと呼ばれるアメリカ風のドリンクをコンセプトに、アメリカンな雰囲気を演出する。初めは「アイス販売の準備ができていない」と苦慮したが、実行委員のサポートで、最終的に「アメリカンな店でアイス販売」を実現した。



教室全体に材料を広げ、看板や内装の制作にいそしむ

苦勞を乗り越え、いざ本番へ 錦城祭・後夜祭実行委員長が想いを語る

「おもてなしの心」を忘れない。いよいよ錦城祭が明日に迫っている。先頭に立ち、錦城祭を引っ張って来た錦城祭実行委員長の中村侑月さん(2E)に取材した。今年の錦城祭の見どころについて、彼はオンラインで「おもてなしの心」を忘れないようにとメッセージを送った。



「全力で楽しみましょう！」

今年もバンドも導入

約半年間にわたる準備期間を経て、いよいよ本番が始まる。後夜祭実行委員長の佐藤景悟さん(2B)に、今年の思いを伺った。



「あとは本番で頑張るだけです」

人形コレクターが集めた人形

その呪いの人形が1つあった。コレクターは自殺してしまふ。その呪いを断ち切るために、人形にお札を貼る。ゴールを目指すというもの。



細部にまでこだわった内装

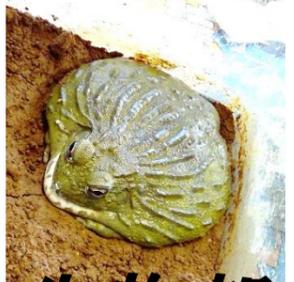


細部にまでこだわった内装

『マッチングお化け屋敷』という企画を行う3年G組。と意気込み「ぜひコマになりて来てほしい」とお客さんと呼びかけた。

ユニークな企画が盛りだくさん！

生物部では魚類や哺乳類などを始めとしたさまざまな生き物を展示する。普段は部室で管理している生き物たちを理科室に運び、お客さんが見えるケースに入れ替えるという。今年のテーマは「推し活」。部員それぞれの「推し」をお客さんにも見せたい、自分の推しを新しく見つけてほしいという思いがあるそう。今年は普段お世話をしている生き物の種類ごとに展示するのではなく、それぞれのグループの生き物を混在させてグループの人気投票もやるという。部長の増田琴水さん(2F)は来場者へ「(この機会に)みんなの推しを見つけてほしいです」と話し、「部員に聞いてくれたら触れるのも多いので、気軽に聞いてください」と続けた。(仏)



生物部

2日目に有志のピアノコンサートが行われる。J-popやクラシックなど各々の好きな曲を持ち寄り、演奏するという会だ。その主催である塩入真悠子さん(2E)によると、開催することになったきっかけは同じ部活の先輩が去年、同様のコンサートを開き、今年もそれを受け継ぎたいということで、去年のメンバー及び新しく集まった1年生で開くことになったそう。塩入さんは来場者に「安らぎと感動を与える会にしたいです」と話し、一生懸命練習してきたという成果を「皆さんに是非お届けしたいです。気軽に足を運んでください」と呼びかけた。(仏)



ピアノ有志

だ。マッチングお化け屋敷という企画名ではあるが、マッチングは任意であり普通のお化け屋敷としても楽しむことができる。企画代表を務める田口莉功さん(3G)によると、マッチングに関する企画を決める際に、お化け屋敷とマッチングを組み合わせたら面白いというアイデアが生まれた。



手編みでお花のモチーフを作る

多くのクラスで、錦城祭本番に向けて一丸となって一生懸命に準備に取り組み姿が見られる。悔いなく2日間を終え、最後まで全力で取り組んでくれたら面々。



作り上げたパンフレットと笑顔の1枚

最後の錦城祭ということ、クラスメイトからは「悔いなく頑張って完全燃焼したい！」と力強く意気込む声も挙がった。錦城生に向けて田口さんは「心臓が弱い方は気をつけて来てほしい」とユニフォームを交えながらメッセージを送った。

錦城祭に花を添えて 陰から支える実行委員

た店舗を直接訪れるなど大変な事も沢山あったという。ここのポイントで言うと、今年来ていたただキツチンカーの紹介ページや、来客用の校舎案内図の見やすさを挙げてくれた。また、各クラスを花に例えるという内容のクラスアンケートが、今年のスローガン「錦城添花」にもマッチした良い企画になったのではないかと語る。星さんは「丹精込めて作ったパンフレットなので、このパンフレットが少しでも錦城祭に『花を添え』られるといいなと思います」と話してくれた。

オープニングを企画

今回は例年の錦城祭とは異なり、オープニングセレモニーが開催される。錦城祭本部企画チームの山崎莉奈さん(2E)は、「前例がない中構」



「慎重に企画を練りました」

あなたは階段派？それとも、エレベーター派？7階の部室に通うため毎日エレベーターを使うのだが、入学して1年半、ずっと悩んでいたのが「エレベーター内気まずすぎ問題」だ。だ「誰かがボタンを押すか」という悩みは序の口で、上級生や先生が乗っているという「気まずさ」なせ生まれるのか？ちなみにあなたは階につくまで階数ラップを見つめてはいないだろうか？この行動には、自分の置かれた状況(今どこだろう...)を知りたいという理由の他に、「エレベーター」が強く影響している(参考: <https://vui-hirano.com/elevator-phenomenon/>)。パソナルスペースとは、「他人に侵略された嫌な空間」のこと。満員のエレベーター(以下「EV」)内ではすし詰め状態になるため、パソナルスペースはガン無視される。結果、その不快感から目を背けるためにどこか他のところを見よう、というプロセスだ。階数ラップを眺めている人は、もしかしたら無意識に周囲警戒中かもしれない。そういえばこの前、EVで友達に寄りかかって甘えたら全力で威嚇された。こういう理由だったのか？▼さらに言えば、「相手のパソナルスペースが分らない」ということも気まずさを増す要因なのではないだろうか。他の人がどんな人かわからない密室空間では「俺邪魔ですよね許して」って感じで不安になることもある▼とはいえないこともあった。先日新校舎のEVに乗り込んだ時、先に乗っていた男子生徒が「さっさと私に何階？押しますよ(笑顔)」と言ってくれたのだ。ちよつと感動したし、たぶんいつもの緊張感はそのとき少し和らいだと思ふ▼「EV内気まずすぎ問題」、解決策は未だ見つかっていない。けれども、あの男子生徒のような、ちよつとした行動から「気まずさ」が減ることもある。今度EVに乗った際は、ぜひ他の乗客も気にかけてみてほしい。(普)

芸術の世界へ羽ばたく錦城生

卒業生 錦城

56回生東京学芸大学美術科阪本さんへ取材

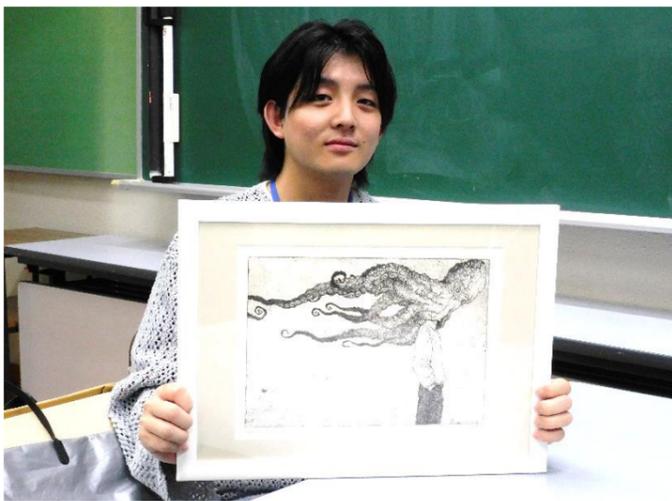
第90回版画協会展にて錦城56回生である阪本裕仁さんが日本の若手版画家3名に選ばれ、今年の2月5日から17日まで銀座のギャルリ・シエーヌで行われた「若き版画家たち展2」に作品が展示された。今号では、新聞委員が阪本さんに取材した様子をお届けする。

(編集部共同取材)

「広い視野を持つ」

新聞委員会は、5月13日(月)に錦城の卒業生である阪本裕仁さんにお話を伺った。絵を描くことが好きで、もともとは美大を志望していたという阪本さん。高校時代は学習塾に通いつつ、美術予備校でデッサンを習い、錦城でも美術科の守屋先生に制作のアドバイスももらっていたそう。

「広い視野を持つことが大切だと語った阪本さん。実際に人と関わることが好きで、作品の制作を通して様々な人と交流を深めているという。そして、進路に迷っていた時



版画展に出品された作品「予感」を持つ阪本さん

学芸大学での日々

しかしある時、阪本さんに専門の美大ではなく東京学芸大学教育学部美術科という選択肢ができた。東京学芸大学では、教育系の勉強と同時に絵画、彫刻、デザインなどの専門的な勉強ができる。また、学芸大美術科の入試は共通テストに加えデッサンや実技試験もあった。人と関わるだけでなく、入試で今まで習ってきたデッサンが活かせるというところで、阪本さんは学芸大を受験することに決めた。

「美術だから大変とか楽なことではないです。積み重ねが大切だと感じました」と自身の受験を振り返ってくれた。東京学芸大学に進学後は、版画を中心に制作に取り組んでいる。「美大と違って課題がそこまで多くないので、のび



「色々な考えを大切にしています」

ぶれずに自分の作風を貫く

大学卒業後の進路について、阪本さんは「作家として、子供たちと関われる何かになりたい」と思っています」と話してくれた。一般的に教育学部と聞くと教員になると思われがちだが、美術専科の教員の数がそもそも少ないこともあって、美術科の大半は普通に就職するそうだ。以前は阪本さんも美術教員というビジョンを思い描いていたそうだが、今は具体的なことは決まっていないという。

今後の制作活動については「他人と比べることなく、自分が良いと思えるものをぶれずに作っていきたいと思っています」と意気込んだ。

高校時代から現在に至るまでの自身の経験を踏まえ、うえで阪本さんは、錦城生に向けて「視野を広くもって、遊び

写真部砂野さん 地区大会で入選

その一瞬をシャッターに収める

写真部の砂野結月さん(2B)は第47回東京都高等学校文化祭写真部専門地区大会で自身の作品が佳作に入選し、8月22日(水)～25日(日)まで東京芸術劇場ギャラリー1にて作品が展示された。入選を受けて砂野さんは「特に花の撮影を得意分野としているので、得意分野の作品を評価してもらえて嬉しいです」と語った。

昨年度の大会でも作品が入選することのあった砂野さんだが、昨年と比べて技術面での成長を実感することも多いそうで「昨年はカメラ初心者ということもあってカメラの設定もなんとなくやっていたのですが、今ではカメラの設定やロケーションをしっかりと意識して撮りたいものをしっかりと撮れるようになりました」と自身の成長を振り返った。

砂野さんは「昨年は秋の中央大会で入賞することができたので、今年はその結果を超えられるように頑張りたいです」と今後の意気込みを語った。



作品「フラワームーン」

小さな積み重ねが生む結果

吹奏楽部 コンクールで銀賞

8月14日(水)にルネこだいらで第64回東京都高等学校吹奏楽コンクールが行われ、錦城高校の吹奏楽部がA組に出場した。結果は銀賞だった。クラリネットパートで部長の岡田桜歩さん(2J)に話を聞いた。

岡田さんは結果について「全員が『金賞を獲りたい』という目標のもと練習を重ねてきたので金賞でなかったのは残念だった」と言葉に悔しさを滲ませたが、「その悔しさをバネにして来年に向けてこれから練習に励んでいきます」と意気込み、前向きな姿勢を見せた。

今年からは先生だけではなく、生徒主体での基礎練習を増やすことが増えたのが大きな変化だったと振り返る岡田さん。しかし、今回は、まだまだ基礎が足りていないことを痛



「悔しさをバネにして練習に励みます」

合宿レポート第2弾

練習を経て深まる絆

7月29日から31日までの3日間、室内楽部は山梨県の民宿「麗峰」で合宿を行った。午前中は主に一人で練習し、午後からは合奏を中心に練習を行った。夕食をとった後は自由時間だったが、自主練習をする人も多かった。生活面で特に印象的だったのは出発前から配膳の担当を



午後練での合奏の様子

室内楽部編

分けていた班だけでなく、担当でない人も積極的に協力していたところだ。全体の事を考えて行動する姿勢がみんな足並みをそろえて演奏する合奏にも生きていた。ほかに、それぞれがバラバラに練習するわけではなく、パートごとにグループになって練習したため、お互いに質問をし

やすい環境だったことが印象的だった。合奏の際には普段の2時間半の活動では気づくことができないような細かい問題もパートごとに確認しながら、修正していくことができた。1日目の夜、全員で宿から少し離れた広場で手持ち花火をした。みんなそれぞれで花火を楽しみ姿が見られ

た。この合宿で個人としても全体としても成長できた3日間となったと思う。

(室内楽部部員・萩原)

お詫び

阪本さんへの取材は5月に行ったものです。内容は、全て5月当時のものであり、現在と異なる場合があります。掲載が遅れてしまったことをこの場を借りてお詫び申し上げます。

こだわりぬいた渾身の一作

鉄道研究部ベストクオリティ賞受賞

8月2日から4日まで新宿住友ビルで鉄道模型コンテストが行われ、鉄道研究部がベストクオリティ賞を受賞した。今回、部長の大野瑞季さん(2E)にお話を伺った。

今回受賞したジオラマは、正方形の土台を半分に区切り、現代と昔の風景を表現したという。今年の5月頃から部員4人で制作したそう。ジオラマのパーツは基本的に自分たちで1から作っていて、建物はつまようじと割り箸、人は粘土で制作したという。粘土で型を取った時に出るバリを切り取って人の形にする作業や、建物の寸法を合わせる作業が大変だったそう。



今と昔を表したジオラマ

他には、レジンを使って河川を表現した部分で、土台からレジンが漏れ出たり、気泡が残ったりするトラブルが起きたという。失敗した部分を隠すために木を1から手作りし、なんとかカバーしてきたと話してくれた。思い入れのある箇所について聞くと、「お城をこだわって、すごく時間を使いました。石垣1つ1つの色まで全て違う色で作りました」と語ってくれた。

錦城祭では、歴代の作品を繋げて電車を走らせる展示をするという。ジオラマ作り体験もできるので、ものづくりが好きな人や興味がある人はぜひ来てほしいと語った。(梟)

大会報告

ソフトボール部
▽9月8日(日)
令和6年度第64回東京私学女子ソフトボール新人大会
1回戦 対普通連士学園 勝利
東京私学ベスト16進出

生徒会動静

- ▽9月10日 図書委員会 随時活動中
- ▽9月12日 体育学芸委員会 随時活動中
- ▽錦城祭実行委員会 随時活動中
- ▽中央委員会 随時活動中
- ▽代議委員会 随時活動中

錦城祭のお知らせ

新聞委員会は2階職員室前ラーニングスペースでクイズ、輪投げを実施します。景品も用意しているので、是非、来てください!!